

○議長（明和善一郎君） 7 番 竹島貴行君。

○7 番（竹島貴行君） 7 番 竹島貴行です。

私は、2 つの質問を通告させていただいております。

まず第 1 に、I C T 活用による子育てコミュニティづくりについてであります。

先般 6 月 3 0 日に、舟橋村における「I C T 活用による子育てコミュニティづくり」に係る連携協力の覚書が舟橋村を含む 4 者で取り交わされました。覚書における 4 者とは、舟橋村を甲とし、富山大学が乙、N T T 西日本富山支店が丙、そして N T T アドバンステクノロジーを丁とするものであります。

そして、この事業を推し進めるため、社会実験業務委託費として 1, 0 0 0 万円の歳出を、議会では本年 3 月議会における平成 2 7 年度補正予算の中で承認しました。

覚書は、舟橋村が I C T 活用による子育てコミュニティづくりを実現するため、舟橋村が取り組み事業の企画、運営及び管理するため、ほかの 3 者がコーディネートや研究協力をするというもので、あくまで主たる事業者は舟橋村です。

この事業の歳出名目は社会実験業務委託費となっていますが、当然、単なる社会実験に村として税金を使うことは許されず、議会はこの事業が将来、住民の大きなメリットにつながるのだという当局提案を信用し歳出承認したものです。そして、今後、議会は自らの責任として、この事業成果に大きな関心を持ち、推移を監視、チェックしていかなければなりません。

この事業目的を達成するためには、戦略的に幾つもの重要業績評価指標である K P I を計画的に設定し、順次指標をクリアすることで最終目的を具現化されていくものと考えています。

そして、K P I については、総合戦略を推し進めるための手法であると以前に議会へ説明されておりますが、総合戦略の一環であるこの事業においても K P I 手法が取り入れられることは当然であると考えております。

そこで、舟橋村が主体的に企画する I C T 活用による子育てコミュニティづくり事業に貴重な財源が使われますが、計画的にどのようなストーリー展開を想定されているのか、具体的に K P I がどのように設定され、過程の中で何をどのようなものが成果として形づくられ、最終的にこの社会実験により何を実現しようとしているのか、工程過程の具体的な説明を求めます。

次に、防災行政への取り組みについてであります。

さきに質問されました議員さんが、今般の台風の被害における被災者に対するお見舞いと哀悼の意を表されましたが、私もこの質問に当たり、同様のお見舞いと犠牲になられた方の哀悼の意を表したいと思います。

去る8月31日に、台風10号の局地的豪雨により岩手県岩泉町で小本川が氾濫し、濁流が木造平屋建てのグループホームをのみ込み、入所者が遺体で発見されたという痛ましいニュースが報道されました。

この事例同様、当村においても同じようなリスクが常態化しております。舟橋村を流れる川や排水路の水は、地形的に上流から白岩川へ流れ込む形態となっており、白岩川が増水または氾濫すれば、地盤の低い舟橋地区の多くが水に浸かります。

最近発刊された村史には、これまでの白岩川の氾濫及び堤防の決壊による水の被害が記載されていますが、直近では、7月27日の立山町上流での豪雨により白岩川が増水し、舟橋村を流れる川や水路の水を白岩川がのみ込めず、夜中の午前3時ごろ、舟橋地区の特別養護老人ホーム駐車場や隣接する団地内道路、農道、田畑が冠水しました。

このときは、川が増水により排水路の水が逆流、水路から溢水、そして一帯が冠水するという経緯でした。幸い川の堤防決壊には至らず、午前4時過ぎには排水路の逆流がとまり、水が下流方向へ流れ出し、事なきを得ました。

しかし、今後も同様のことが繰り返されることは自明の理であり、岩泉町を教訓に、国や県の関係部局と調整を図り、抜本的な治水対策に取り組むべきと考えますが、村長の考えはいかがでしょうか。答弁をお願いします。

○議長（明和善一郎君） 生活環境課長 吉田昭博君。

○生活環境課長（吉田昭博君） 7番竹島議員のICT活用による子育てコミュニティづくりについてのご質問にお答えいたします。

平成27年10月に策定いたしました本村の総合戦略には、これまでのまちづくりの検証と今後の人口推計に基づきまして、持続可能なまちづくりを目指した目標と施策を示しております。

そのかなめとして、これまでの全国的な先駆的事例の研究により、地域のコミュニティ機能が出生率に大きく影響していることから、子育て共助のまちづくりを柱とする施策の構成になっております。

具体的には、子育てサービスの充実と地域コミュニティの推進により、5年間40件の子育て世代の人口流入と現在の合計特殊出生率1.45を2.07に上げることで、

2060年の人口3,155人を目指す計画であります。よって、総合戦略に掲げる全事業は3,155人を目指すというふうな計画になっております。

議員よりご質問のありましたICT活用による子育てコミュニティ事業につきましては、去る6月30日、舟橋会館におきまして、国立大学法人富山大学地域連携推進機構、西日本電信電話株式会社富山支店、NTTアドバンステクノロジー株式会社と舟橋村の4者によるICT活用による子育てコミュニティづくりに係る連携協力に関する覚書の締結を行いました。

事業内容につきましては、まず、平成28年度は初期段階といたしまして、子育て世代に役立ち、子育て世代間の共助を促すようなサービスを実施してまいります。

具体的には、子ども用品の交換サービスや子育て日記サービス事業を展開することで、不要になった子ども用品を必要とする世帯へ提供したり、子育てに悩む親に日記形式で経験やアドバイスを伝えるなど、これまでの子育て世代の経験を生かすことにより、サービスの受け手である子育て世代がサービスの担い手になる仕組みを推進する事業でありまして、今年度の重要業績評価指数のKPIは、ICTの新規活用者を20名といたしております。

また、今年度は、この事業にあわせまして、子育て世代やエイジレス世代の行動データ等を蓄積し、ビッグデータの基盤づくりを実施いたします。

来年度から平成32年度までの中期段階では、住民の行動データの分析を行い、新たな住民サービスの提供、住民の特徴にマッチする村の共助活動への参加促進を図って、住民の参画機会と役割意識の向上により、本村が目指す共助のまちづくりの共感づくりを推進します。

具体的には、住民行動データの活用により、住民の属性や行動等のデータを分析し、住民とコミュニティのモデル化を行いまして、そのモデルから各共助活動にマッチする適材な人材を選定する仕組みを構築してまいります。

例えて言えば、地域活動に関心がある人、ない人は必ず行動に違いがあります。また、地域活動に関心がある方にもそれぞれ特徴があります。データを細分化することで、どのような活動に適するのかを判別し、マッチングを推進してまいります。

一方、地域活動に関心がない方にも、効果的な情報を提供することで地域への関心を高めていけるような仕組みをも構築していく計画であります。

KPIにつきましては、複数年にまたがる事業でありますので、1年ごとに検証を行

い、P D C Aに基づきまして設定してまいりたいと考えておりますが、新たな子育てサービスの数と地域に参入する住民の数は単年度におけるK P Iとなります。

いずれにいたしましても、I C T活用によるコミュニティづくりは全国で初めての取り組みであり、試行錯誤を繰り返しながら遂行いたしますが、本村総合戦略の目標達成につながるよう努めてまいりますので、議員各位のご理解とご協力をお願い申し上げまして答弁いたします。

○議長（明和善一郎君） 村長 金森勝雄君。

○村長（金森勝雄君） 7番竹島議員の防災行政の質問にお答えいたします。

議員ご承知のとおり、台風10号は、観測史上初となる東北地方の太平洋側へ上陸いたしまして、9月9日現在では、岩手県や北海道で死者21人、その他行方不明者7人など、孤立集落地域の発生、泥水の流入による農産物の被害など甚大な災害をもたらしたのであります。

幸いにも、富山県内では被災はありませんでしたが、当該の被災から自然災害に対する防災対策の重要性を再認識させられたのであります。

また、県内では、去る7月26日から27日の未明にかけて、停滞前線が日本海中部に伸び、暖かく湿った空気が流れ込んだ影響によりまして、記録的な集中豪雨が発生いたしております。

立山町芦峯寺では、1時間雨量60.5ミリの激しい雨を観測し、総降水量が217.5ミリ。また、上市町でも24時間降雨量が190ミリとなるなど、7月の観測史上最大となる大雨となり、本村におきましても、白岩川下流の舟橋地内をはじめ、村内数箇所 で用排水路の溢水が見られたところであります。

幸いにも、近隣市町で発生した床下浸水や農作物被害は発生しませんでした、近年、経験していないような状況であったことは間違いありません。

議員ご指摘の白岩川につきましては、昭和44年8月の豪雨により、本村をはじめ、富山市水橋地区、上市町放士ヶ瀬地区、立山町泉地区が甚大な被害を受けたため、その後、県が策定した改修計画に基づきまして改修が遂行されているところであります。

事業の概要といたしましては、栃津川合流点から河口までの6.8キロメートル、総事業費145億2,600万円であります。

これまでに築堤、護岸の整備の工事を終えており、平成27年度末の進捗率では76.8%であります。残りの護岸延長や橋梁などの改修を行うと聞いておりますけれども、未

実施地区並びに危険箇所につきましては、早期な対応に加えまして、今回の大雨を踏まえ、村内における危険箇所を再度調査し、あわせて河川の管理者であります県に要望してまいります。

また、今回は水稻の出穂期のため用排水路の水量が多い状態であり、また夜間の降水量が増えたため、水門などの調整も容易にできなかったことが要因として考えられます。

また、水害の恐ろしいところは、自分たちの周りで雨が降っていなかったり、やんだ後などに発生すること、あるいはまた夜間に急激に用排水路の水かさが増える点でありますので、住民の皆さんには、日ごろから気象情報あるいは川の状態等に目配りをしていただきたいと思います。

いずれにいたしましても、治水対策に最も重要なことは、県、村、地域、そして住民がそれぞれの役割を明確にし、お互いの分担により対策を講じることだと理解しておりますので、今後とも地域住民と村との連携を図りながら治水対策を進めてまいりますので、議員各位のご理解とご協力をお願いいたしまして、答弁とさせていただきます。

○議長（明和善一郎君） 竹島貴行君。

○7番（竹島貴行君） ご丁寧な答弁に対して感謝申し上げます。

まず1番目のICTにおける質問であります。課長が答弁されたとおり、着実に前へ進めていただきまして、総合戦略が確実に実るようお願いしたいと思います。議会としてもこれはしっかりと監視、チェックを一応させていただきます。

次に、防災行政の取り組みについてであります。村長は県とも一応協議を進めていくということで、前向きな答弁をいただきました。

今、舟橋村には、地域防災計画なるものがあります。この計画におきまして、今回の起こりました事案をしっかりとリンクさせまして、より実効性のあるものにしていただきたいと思いますというふうに考えるわけであります。

今回、関東地方の河川氾濫地区では、川の増水におけるタイムラインに連動して、この防災計画を運営していくというふうなこともマスコミ報道がなされております。

こういうことも舟橋村における、先ほど一応村長がおっしゃいました。地区並びに行政が一体としてこの防災対策に当たっていくという、そういう答弁がなされましたけれども、現実的に実効性のあるものにしていただきたいと思いますというふうにお願いします。

この点、一言ご答弁いただければと思います。

○議長（明和善一郎君） 村長 金森勝雄君。

○村長（金森勝雄君） 竹島議員さんの防災対策に対しての実効性についての再質問があったわけでありまして、それにお答えしたいと思います。

計画は計画ということにはいかないわけでありまして、やはりそれをいかに住民なりの協力をいただくようなシステムを構築し、そしてまた、それを実現していくことが役場の務めだと私は思っておりますし、そしてまた、先般も言いましたけれども、7月26日、27日未明にかけての大雨の関係でございましたが、おかげさまで、私がそういった現場におりまして目撃もさせていただきました。

やはりそういった体験から、今竹島議員さんのおっしゃっていることが十分理解できるわけありますので、私も今後ともそういった面を踏まえまして、住民が安心して生活できるような環境づくりのために一層努力してまいりますので、そういう点をお誓い申し上げまして、私からの答弁とさせていただきます。